

サイ波動薬通信

www.vibrionics.org

病める人、打ちしおれた人、落胆した人、疾患に苦しむ人がいれば、まさにそこにあなたの奉仕の場があります・・・シュリサティアサイババ

第5巻 第1.5号 特別号

2014年2月

サイ波動薬国際会議

プッタパーティ 2014年1月25-27日

概要

プラシャンティニラヤムにおける第1回サイ波動薬国際会議及び展示会への代表者の参加受付は1月25日に行われ、翌日1月26日にはスワミの旧マンディールで開会式が行われました。演壇に設けられた祭壇には両手を挙げて祝福されている大きなスワミの写真が参加者を迎えてくださっていました。(写真参照) また、祭壇にはギリシャの医学の守護神であるアスクレーピオスとヒポクラテスも祀られていました。当会議の至高の来賓としてバガヴァンシュリサティアサイババと記された会議参加証バッジもスワミの写真の花輪から顔をのぞかせていました。会場では主の臨在が疑われることはなく、サイの恩寵はマンディールの神聖な雰囲気の中で感じられました。それは参加者を包む愛の波動として、また患者さんへの愛ある奉仕への決意の力強さの中に次々と行われるプレゼンテーションを活気づけるものとして存在していました。インドや世界各国からの実践者によって洪水のように発表される報告の中で、サイ波動薬を通して奇跡的に癒された驚くほどの数の症例が分かち合われ、そこにはスワミの意志が示されていました。

来賓

スワミの祝福は開会中様々な形で示されました。まず第一に、この大いなる吉祥の場で、開会のあいさつを戴いたシュリR J ラトナカール氏と主賓であるジャスティスAPミスラ氏をお迎えできたことは大変な光栄でした。お二人ともシュリサティアサイセントラルトラストの評議員であり、会議の基調を霊性の高みまで引き上げてくださいました。その他の来賓として同トラストの評議員であり全インドサティアサイセヴァオーガニゼーション会長であるシュリVスリニヴァーサン氏、同トラスト評議員シュリTKKバガヴァート氏、サティアサイ高等医学協会運営参事のマイケルパコフ医学博士も臨席され、また、南アフリカにおけるソーハム協会のスワミアーナダ(写真参照)が特別ゲストとして2回の講演を通して参加者を喜ばせてくださいました。この日の会議に続いて催された晩餐会では特別ゲストとしてサティアサイセントラルトラスト評議員であるシュリKチャクラヴァトリ氏が臨席される予定でしたが、トラストの会議のため残念ながらありませんでした。また、来賓・オブザーヴァーとして、シュリサティアサイセントラルトラストのメディアコーディネーターであるアナンタラーマン教授も会議に参加されました。

実践者の体験

このプッタパーティでの会議のために、インド各州から278名、17か国から64名の総計342名が集い、会場の旧マンディールは満杯となりました。この集いでは、スワミの恩寵によって、参加者間に文化や国籍の違いが全く見受けられず、愛ある奉仕への共通した決意を持った兄弟姉妹として参加者はハートによって結ばれていました。その結果、この集いそのものが公式な会議というよりはむしろ家族的な雰囲気の中かで進行し、また予期せぬ祝福によりこの機会により多くの喜びをもたらしました。15名の実践者が発表を行い、出来るだけ多くのことを吸収しようと、参加者は集中して耳を傾け質疑応答の時間はぎりぎりの時間まで活用されました。会議の進行と平行して、休み時間等では打ち解けた雰囲気の中、お互い同士が対話をする貴重な機会がありました。遠方からはるばる集まった波動薬ファミリーの面々がお互いを知り情報交換を行うなど、時間が最大限に有効に使われました。今回初めて会う実践者同志が堅苦しきのない打ち解けた雰囲気の中で、特定のレメディの効果や対応の仕方などを語り

合い、また、個人的な体験や想いを交換し奉仕におけるヒントや助言を交換し合いました。こうした交流によってこの会議は実質的に一日24時間のフルタイムの会議のようになりました。

スワミのリーラ

会議の終了に当たって、会場の旧マンディールで108のコモンコンボボックスの再チャージがそれぞれの実践者の間で行われましたが、その一つのボックスにヴィブーティが物質化され、スワミの更なる祝福が示されました。インドからの実践者がふと自らのボックスに目を落としたところ、ビブーティが数列の容器の上に降り注がれているのを見たのです。その場にいた多くの実践者もまたこの聖なる出来事を見届けました。スワミは「プッタパルティで波動薬の国際会議が行われるであろう」と2007年に宣言されましたが、その御言葉が成就されたばかりでなく、こうした個別の名刺を残され、サイ波動薬そして第1回目の会議そのものを祝福されたのです。

会議の内容とビデオ

当会議の内容はサイ波動薬の推進者であるアガルヴァル博士によって「第1回サイ波動薬国際会議議事録」として編集・刊行され、スワミに捧げられ、参加者にも入手可能なものとなりました。この本には、世界各国からの実践者から多数送られてきたものの内の一部である（インドおよび16か国からの85名の実践者による）記事が収められています。これらの記事によって（会議に参加されなかった方々にとっても）今回の会議で発表されたものよりも多くの実践者の体験を知ることが可能となりました。この刊行は20年にわたるサイ波動薬の奉仕活動から集められた実践者の体験の成果を大規模に分ち合うという前例のない試みです。これらの体験報告は奉仕の第一線で活動する実践者にとって直に役立つ情報の宝庫であるとともに、その目的は、様々な局面や状況の中で実践者にとっての活動の力を養い患者さんへの最善の奉仕ができるようにすること、あるいは世界中で起こっている波動薬の発展と現状の一端を知ってもらうことにあります。それに加えて、この本は健康管理に携わる方々やサイ波動薬の起源と発展そして現状をより深く理解したい方々にとっても大変有用なものとなっています。さらにお伝えしたいことは今回の刊行に収められている記事の他にも、発刊の期限に間に合わなかったその他の記事が多数存在しているということです。近い将来にこれらの記事は編集されみなさんと分かち合われることになるでしょう。

この刊行物の他にも、「サイ波動薬とは何か」という14分間のビデオがスワミに捧げられ会議の場でも上映されました。このビデオもまた参加者にDVDとして入手可能となりました。長年奉仕活動に携わっているダイルーツ・ヘビッツ（ポーランド）氏によって制作されたこのビデオでは、スネイル・アガルヴァル博士による英語での語りによって、波動薬の発展とサイラムヒーリングマシーンがどのように機能するかの説明がなされています。この映像は、一般の人々や将来の患者さんに波動薬を説明したいとする実践者にとって、すぐに活用できるものであり明確な解説となるものです。

展示

会議と並行して、サミール・ボーズ氏によってまとめられた「世界に広がるサイ波動薬」と題する展示も行われ、サイ波動薬の誕生から今日までの流れと動きが地図や表、写真を用いて示されました。また、この展示では、インドや世界各国での医療キャンプや実践者養成トレーニングを含む様々な活動も紹介されました。

画期的な出来事

総括として、第1回サイ波動薬国際会議は画期的な出来事となりました。この貴重な機会は、波動薬が次の段階へと移行する新たなエネルギーを生み出し、実践者間の協力関係をさらに親密なものとし、世界中のサイ波動薬の教育支援や最適な実践が更なる発展を遂げる礎となることが期待されています。今日まで、4500名の実践者が養成訓練を受け、180万を優に超える人々が癒しを受けてきました。しかし、更に何百万もの人々がこの癒しを必要としています。

この会議の終了後、参加者はスワミの恩寵によって更なる熱意と信に満たされ、スワミが私たちに与えてくださった愛の実践という使命を勤勉な無私の奉仕によって果たそうとする決意を新たにしてそれぞれの奉仕の場へと戻っていきました。

会議内容

2014年1月26日（日曜日）

プッタパルティにあるペダ・ヴェンカマラジュ・カリヤーナ・マンダパム（スワミの旧マンデール）は2人の実践者のセヴァによって活き活きとした花と緑の美しい佇まいとなり、早朝から参加者が集いました。会議は朝8時に開かれ、「オーム」が3回唱えられた後、6人の実践者による6分間のヴェーダの詠唱が行われました。

会議の開会宣言と灯火式のために、シュリR Jラトナカール氏、主賓であるジャスティスAPミスラ氏、シュリVスリニヴァーサン氏、シュリTKKバガヴァート氏、スワミアーナナダ、マイケルパコフ医学博士が壇上に案内されました。ジャスティスミスラ氏は、この会議のために発刊された「第1回サイ波動薬国際会議議事録」の最初の1冊を飾っていたリボンをカットし、またその際、ポーランドの波動薬講師および世話人であるダイルーツ・ヘビッツ氏もまた、ビデオ「サイ波動薬とは何か」をスワミに捧げるために紹介されました。このビデオは会場で大いなる賞賛を持って上映されましたが、波動薬公式ウェブサイトにも閲覧できるようになる予定です。

第一部

アガルヴァル・ジット博士

米国波動薬世話人・講師であり、波動薬通信の編集者であるスーザンシルヴァンラコーフ女史が総合同会を務め、サイ波動薬の創始者であり執行代表者であるアガルヴァル・ジット博士の開会のあいさつを行う旨の紹介を行いました。冒頭で、アガルヴァル博士は参加者を歓迎すると共に会議へのスワミの祝福を祈り「私たちに導くサイと波動薬の誕生」と題する講話の中で、2007年4月のスワミとのインタビューの中で波動薬の国際会議がプッタパルティで開催されるであろうと言われた時の驚きを回想しました。サイの言葉は必然で今まさにそのことが実現しつつありました。

会議の開催への実践者の反応は圧倒的なものがあり、多くの人による多大な努力と助けによってこのイベントが実現しましたが、アガルヴァル博士は波動薬の発展の過程でスワミが果たされた役割についての個人的な体験の内、最も印象に残るものを紹介し、サイがいかにかこの活動を導き、方向づけてこられたかを明らかにしました。紹介されたいくつかの逸話では、スワミが数多くのインタビューの中でサイラムヒーリングマシーンに多大な関心を示し、1994年にアガルヴァル博士によってデザインされた最初のを祝福され、1996年により小さくなった改良モデルを褒められたこと、1998年に波動薬の成分とは神の波動であることがスワミによって伝えられたこと、スワミが繰り返しアガルヴァル博士にアシュラムの外や他の国々で波動薬について教え広めていくよう指導されたこと、2008年に108のコンボボックスを祝福されたこと、2011年3月、スワミが入院される数日前という（肉体的に厳しい）状況の中でさえもサイ波動薬はサイオーガニゼーションの中で継続されるべきであることがスワミから伝えられたこと、が語られ、さらにアガルヴァル博士はこの会議での実践者同志での分かち合いのための黄金の機会を最大限に生かすよう熱心に勧めました。最後に、博士はスワミが真摯な奉仕を志向する人々を継続して導き・教えてくださるよう祈りました。

開会の辞: シュリR Jラトナカール

次に、アガルヴァル博士は、本会議の開会の辞を述べられるシュリR Jラトナカール氏を紹介しました。シュリ・ラトナカール氏は（2007年に国際会議が行われるであろうという）スワミの御言葉に言及され、スワミが何かを発言される時にはいつでもその言葉自体が実現せざるを得ない高い波動を内包していることを私たちひとり一人に知ってほしいことを強調されました。シュリ・ラトナカール氏は実際この会議がどのようなものになるのかあまり念頭になく、講義や意見の交換といった教室のようなものとなるのではないかと考えていたものの、実際今自分が体験しているようなこれほど活気に満ちたものとは想像していなかったことを吐露されました。会議のパンフレットや要旨に鑑みて、2点、すなわち、第一に、波動薬の奉仕を行うには良いハートを持つこと、実際この世界で何をするにもそれが必要であること、良いハートからは一体性という目的が湧き起り、この一体性を意識することによって必ずゴールに達すること、第二に、患者さんを癒しているのはスワミであること、「自分」が行為者であると考えるのは幻想に過ぎないことを強調されました。

シュリ・ラトナカール氏は数年前、自身が患者であった時の個人的な体験についても言及されました。大きな事故によって、自身が4週間スーパースペシャルティールホスピタルの集中治療室にいましたが、その際バガヴァンが彼を訪ねたことがありました。足部の深刻な損傷を含め数か所の骨折があったものの、自身が痛みを感じることは全くなく、スワミは、実際、事故の当日から、「いつ歩き始めるのだ？」と尋ねることで、全てが順調に推移することを自身に思い出させてくれていました。実際、当時、足は複雑骨折の状態でしたが、今、自身はサイの恩寵によって歩くことができ、昨年、自身が御子息とゴルコンダフォートへの600もの階段を上ることができるまでにスワミは彼を癒してくれました。自身が頂上に着いて最初にしたことはスワミへの感謝の祈りでした。

シュリ・ラトナカール氏は続けて、このことは神の性質であると強調しました。一旦、神が私たちの中に融合するならば、神は減ずることも変化することもなく常に共にい続けることが可能である、と語りました。スワミは私たち一人ひとりに神の愛と波動を送ってくださいます。ちょうどそれは神が宇宙の全てのものにエネルギーを注ぎ、神の愛で全宇宙を満たしているのと同じようにです。

さらにシュリ・ラトナカール氏は、ダルシャン中に起こったある出来事を回想されました。マレーシアから来た9年間寝たきりだったある男性の話です。スワミが「あなたは再び歩くことができる」とその男性に言われると、その男性は起き上がり、全員の前で歩いたのです。スワミの御言葉に含まれている波動そしてスワミに触れられることの中にはそのような力があり癒しが起こります。シュリ・ラトナカール氏は自身がこれまで出会ってきた数々のスワミによる癒しのお話をされました。

終わりに、シュリ・ラトナカール氏は波動薬の実践者に向けてのメッセージを伝えました。それは、自身がスワミを知るようになってスワミが人選（そのこと自体が重要であるため）に関して大変慎重であるということ、だからこそ、スワミはアガルヴァル博士を選び彼を何度も何度も祝福し、一步一步彼を導いてこられたという話でした。シュリ・ラトナカール氏はまた、会場の実践者に直接向かって、スワミがずっとこの素晴らしい癒しのメソッドを祝福していて、この波動薬の奉仕を実践する人全員を祝福していると語りました。「みなさんはバガヴァン自らの手によって選ばれたのです。何百万もの人が痛み、健康を求め、支えや愛、奉仕や世話を必要としています。サイの御名につながるサイの帰依者として、またサイ波動薬の実践者として、私たちには純粋なハートでこの素晴らしい活動を実行するという神聖な義務があります」と訴えました。続けて、彼はスワミに対し、この惑星のあらゆる人にこの癒しが広がっていき神自身の愛の王国を実現するために、ここにおられる全ての実践者を愛と力で満たしてください、と祈りました。

シュリ・ラトナカール氏は最後に次のような質問を投げかけました。「6、7年前にスワミがこの会議が行われると意志した時、誰が参加者となるか、サイが既に決めていたと思われませんか？ どうか、それぞれの国や地域に戻られた時、ここで学ばれたことを必要とされている人々に広めてくださるよう切にお願いいたします」と強い言葉で話を締めくくられました。

英知の言葉: ジャスティス・A・P・ミスラ

次に本会議の主賓であるジャスティス・A・P・ミスラ氏が紹介されました。彼はまず、神の使命と価値実現のために集まった波動薬実践者の貴重な集まりでありさつをする機会を与えてもらったことの感謝を述べられ、スワミが実践者のみなさんを祝福されているからこそ、みなさんの人生は大いなる意味を持っている、と語りました。その昔、抗生物質が使われるようになり病院が建てられた頃、これこそが病気に対する答えであると人々は思いました。当時こうした薬剤を身体に入れることはより多くの問題を生じさせるということに気付く人もいませんでした。彼はまた、スワミが会議の開催を予言されたことにも感謝を述べ、会議の開催場所がスワミの旧マンディールであることの重要性にも言及されました。この場所がスワミの生誕地に近くその波動を保っており、スワミの使命もまた実はこの最初のマンディールから始まったこと、この驚異的なアヴァターの使命が始まった同じ場所でこの会議が行われようとしていること自体が、波動薬の長期の成功が保障されていることを示すものであり、波動薬が真の癒しの力を持っているという信念を表しました。

さらに彼は、マクロ的な観点から波動薬をとらえた話の中で、全宇宙が波動に満たされており、こうした波動が人類に寄与していることのごく一部を波動薬も担っていることを説明しました。彼は、詩的な表現を用いて、地球が太陽の周りを回り、太陽にもまた銀河系の中での周回があり、銀河系自体も大宇宙の中を周回していることなど宇宙が絶えず動きを伴っていることをダイナミックに描写し、以下のような話を続けられました。

「天体にあるこれらすべての星々はとてつもないスピードで広大な距離を運行しています。宇宙のエネルギーは無敵です。スワミは地上に降臨され、これらのエネルギーが私たち一人ひとりの中に、この波動の力が全ての帰依者の中にあることを示しました。それゆえ、実践者がこの波動薬の奉仕活動を行っている時、それは他の人を助けているのではなく、自らを向上させているのだということに気付かなければなりません。みなさんは人類に奉仕しているのではなく、まずは自らに奉仕をしているのです。愛ある奉仕の影響とはどのようなもののでしょうか？その一つの例をお話したいと思います。慈悲の活動に従事していたマザーテレサの生徒が血液検査を受けたのですが、彼女たちの健康が強化されていることの証として、免疫性因子の存在が示されたのです。帰依・献身・全託に基づく奉仕によりこうした状況が生まれます。ですからみなさんには、是非とも、愛と慈悲の純粋な道具となってもらいたいのです。スワミは黄金の時代がやってくると予言しています。今日、私たちは波動薬を処方しています。そして全ての病気が癒される日がやってきます。私は波動薬が世界を包む日が来ることをためらうことなく確信しています。最後になりますが、この会議に参加させていただいた貴重な恩寵に感謝いたします。みなさんお一人おひとりもまたここにおられることはスワミからの大変な恩寵であります。なぜならスワミ御自身がこの会議を成功させるものであって、みなさんはその一部であるからです。みなさんの御活躍をお祈りしています。」彼はこのようにして話を締めくくられました。

ジャスティス・A・P・ミスラ氏の講演に引き続いて、来賓のみなさんが、「世界におけるサイ波動薬」と題する展示の開会宣言式のテープカットのため、展示場に招かれました。

このテープカットの開会式が行われている間、各国代表者はダイルーツ・ヘビッツ氏によって製作された8分間のビデオ「サイ波動薬とは何か」を鑑賞しました。2008年から2010年の各年のグループユニマという吉祥の機会に、波動薬チームはケーキをスワミに捧げるという祝福が与えられました。これら全ての機会に、我々の愛の主はキャンドルに火を灯され、ケーキをカットし、マンディール内でのプラサードの配布という名誉を我々に与え祝福されました。このことはスワミが公的な場所で波動薬を祝福されたものとして、また、全ての実践者に対してこの活動が神の導きのもとにあるものであるという勇気づけをされたものであると理解することができるでしょう。

実践者によるプレゼンテーション

第一セッション

最初の発表者は、波動薬研究の第一人者、講師、さらには波動薬コアチームの上級委員である**英国のパットハント女史**でした。彼女は「波動薬の旅路—見えないものの足跡」と題するプレゼンテーションの中でいかに彼女がスワミによってホメオパシーへと傾倒していったか、そしてスワミナラヤニとスワミアーナダの「癒しのハンドブック」に出会い、その後アガルヴァル博士夫妻に会うことになったかについて語りました。ちょうどその頃、アガルヴァル夫妻は波動薬の誕生に関してスワミの導きを絶えず受けていました。当時、波動薬が発展するにつれて医療キャンプやクリニックで通常処方される多くの症状や病気を網羅する標準仕様のコンボが必要とされていました。ハント女史は、その後108のコンボに含まれることになるミクスチャーやレメディの生成と研究という使命を与えられました。この活動に携わっていた数か月間、彼女はババの臨在と導きを絶えず感じていました。彼女はまた、アーニカ、カレンドュラ（マリーゴールド）、オトギリソウ（セントジョーンズワート）の原液生成の体験を語り、肺炎マイアズムの治療を初めとする様々な洞察に関して新たなより深い認識を与えてくれました。

次に、この会議の司会である**米国のスーザンシルヴァンラコフ女史**は「鬱の衝撃と波動薬の役割」と題するプレゼンテーションを行いました。彼女は鬱の原因とその影響について語り、心が肉体に及ぼす影響について強調し、自身の波動薬の活動でそのような症状にどのように対処したかを説明しました。患者さんにサーダナ（霊性修行）の機会を増やすように伝えること、患者さんとハートとハートがつながるような関係を築くこと、この双方が大切であることを語りました。新刊本に収められた彼女のレポートの中には長期の鬱ばかりでなく、タバコや躁うつ病、摂食障害、膝の怪我を含めた処方例があり、放射線治療によって悪化した顎の骨の治癒の成功例も収められています。

米国の上級実践者であるアカーシャウッド女史は「第5の元素アカーシャを探究して」と題するプレゼンテーションを行い、ラジオニクスの始まりからサイラムヒーリングマシンの起源と機能にいたるまでを説明しながら波動薬におけるマシンの役割を探りました。彼女は、人の思いと感情の、水に与える影響についての江本博士の発見についても議論しました。新刊本に収められた彼女の処方例には痙攣

性窒息症、ひび割れによる足の出血、悪夢、子供の癩癩、アスペルガー症候群による不眠症と不安、痔、及び便秘があります。

第二セッション

上級実践者であり講師である、**インドのカムラーシュ・アガルヴァル女史**は、「患者から実践者への旅路」と題する個人の体験を発表しました。彼女は、足を引きづるような関節炎から回復して、ムンバイでの波動薬講師・実践者としての現在の奉仕中心の生活へと変容した経緯を辿りました。新刊本での処方例には、慢性関節炎・目の症状（アレルギー・瞼の下垂症、ものもらい）、鼻炎、埃のアレルギーに関する五つの顕著なケースが収められています。アガルヴァル女史はまた、スワミのマハサマディの直前の最初でかつ最後となったダルシャンにパーティへと導いてくれたスワミへの感謝の気持ちを表しました。

日本からは**石井 真博士**が「波動薬における教育的観点」と題するプレゼンテーションを行いました。波動薬ばかりでなくエデュケアにも従事している彼は、この2つに共通する教えに関する洞察を発表しました。時にはやっかいでありまたしばしば傷ついている「小さな自分：エゴ：マインド」（スワミが私たち一人ひとりの真我について語られている一つの側面）について発表しました。新刊本での処方例にはサルコイドーシス、癌腫瘍、中毒、大動脈解離、繊維筋痛症、メニエール症候群、心臓疾患、肺癌なども収められています。

英国からは**ディーパモディ医学博士**が「ある医師に課せられた多くの訓練」と題する発表の中でいかに彼女がウガンダでまだ少女の時にスワミに出会い、また、その後英国で医師として活動し、対症療法の欠点に気づき、患者さんの痛みを和らげる方法を探して代替医療の世界を渡り歩き、彼女の探究が波動薬へとたどり着いた経緯と体験を語りました。新刊本での処方例には、蜂毒感染、甲状腺腫、慢性の便秘、ホルモンの不調和を伴う浮腫み、慢性耳炎、再発性胆石が収められています。

スロヴェニアからは上級実践者である**アナサラスワティコンジャー女史**が「ある波動薬実践者の日記」と題する体験を発表しました。自身が波動薬によって著しい癒しを体験した後、他の人に波動薬を分かち合うことに自らを捧げるに至ったこと、コダイカナルやアンドラ・プラデシュ州の村々やスロヴェニアで行われた医療キャンプでの様々な体験、また、脳卒中による麻痺や意識不明からの蘇生を含む優れた処方例について語りました。新刊本にはその他に腫物の一例の他、2件の緑内障による失明や不眠症に対する遠隔治療が含まれています。

マレーシアからの**ジュリアス・タン氏**は「波動薬と3つのグナ（属性）」について語りました。2007年より活動をしている彼は3つのグナの知識をいかに自身の波動薬の活動に活かし、患者さんの個々の症状に対する処方を適用したかについて議論しました。更に翌日、タン氏は不妊症に関する報告を加えました。波動薬によって生まれた子供たちは極めて才能あふれる存在であることが証明されたとのことです。

イタリアの上級実践者であり、講師である**アナ・チネレート女史**は「信は山をも動かす」と題する発表でダルシャン中、スワミが彼女に対し自身が波動薬を学ぶことになるであろうという劇的で明白な確証をいかにして得たかを語りました。彼女の処方例の中には、慢性の癩癩（てんかん）と精神分裂病の疑いで入院した14歳の男の子のケースがありますが、彼の容態は2粒の波動薬と愛ある言葉で全く変容したのでした。

このセッションの終わりに、マンディールの食堂（写真参照）にてマハラストラからの参加者によって心のこもった昼食がもてなされました。

第三セッション

午後のプログラムは**アガルヴァル博士**による参加者からの質疑応答で始まり、その後、ソーハム財団の**スワミアーナダ**を檀上にお迎えしました。故スワミナラヤニと共に、スワミアーナダは後にサイ波動薬に組み込まれることになるホメオパシーの組み合わせを発見されました。アガルヴァル博士との会見の中で最初にこの癒しのメソッドを波動薬と名付けられたのはスワミナラヤニでした。ソーハムシリーズの各書籍は今日でも全ての上級波動薬実践者のためのテキストとなっています。

スワミアーナダの最初の御講話

スワミアーナダは、お話の前に、自身が癒し手となった経緯について話していくので奇跡的な話を期待されている方々をがっかりさせてしまうかもしれないと断って始めました。そして、スワミヴェンカテサナダとスワミナラヤニが自身の人生にどのように入ってこられたかを語りました。ある友人が自身を誘って、南アフリカを訪れ様々な事柄に関して一連の講話を行っているスワミヴェンカテサナダの話の聞きに行くことになりました。スワミアーナダは会場には足を運んだものの、自身の態度は横柄で利己的なものでした。会場の喧騒の中で一体自分は何をしているのかと訝ったものでした。

しかし、最初のこの体験の後、彼はその後の講義を全て受講することになりました。自身にとって講義の内容は難しいものでしたが、スワミヴェンカテサナダの声がとても優しいものだったのです。それから、もう一人の友人が自身をマタジ（スワミナラヤニ）に会わせてくれるようにしてくれました。スワミアーナダは気が進まないまま、しぶしぶ会ったのでした。そしてマタジは微笑んで彼を迎えました。部屋の中で、彼はマタジの師であるスワミヴェンカテサナダの写真を見ました。二人は早朝の1時まで話をし、そしてその時には、もう彼の人生は全く変わっていたのです。

その後、スワミアーナダは参加者に向かって次のような心のこもったメッセージを送りました。「私たちはどこから来てどこへ行くのかについては知りませんが、ここにいる実践者はババに呼ばれ使命を託されています。曲がりくねった道ではありますが、私たちはそれを辿っています。しかし、人生はそれ自体が展開していくものです。私たちは人生を自らが掌握していると考えていますが、それは幻想です。我々が学ばなくてはならないのは、エゴを本来あるべきところへと手放し、真我に全託することです。」スワミアーナダは続けて、今日この場に立つことは夢にも思わなかったと語りました。70歳となれば杖をついて歩く姿を以前は想像していましたが、彼は自身の人生に起こったあらゆる事柄に感謝していて、その点に関して実践者のみなさんに助言として、何か感謝できることを振り返る時、有難い気持ちがあればあるほど、様々な奉仕の機会が増えていく、と語りました。スワミアーナダは全託の重要性を裏付けるような話を続けられ、全託によって神は我々の人生を引き受け、考えも及びもしないような成功をもたらして下さることを強調しました。アガルヴェル博士がババの恩寵によって素晴らしい仕事を行っていることに言及し、また、実践者に対し、本来の自分、すでに「真我」である自分への気づきこそが重要であることを強調しました。終わりに、スワミアーナダは実践者に対して愛を持って奉仕すること、決して、患者さんに「してあげている」と思うことなく、奉仕の機会を与えてもらっていることに感謝すること、そうすることで「私」が行為者ではなく神が行為者となると語りました。

さらに実践者の発表が続きます・・・

ポーランドからの上級実践者である**ズバイスゼック・スロヴィック氏**は妻の**アrikジャ・スローヴィック女史**を代弁し、波動薬による自らの安産の経験を契機にいかにして2人が徐々に波動薬実践者の家族になっていったのかを語りました。2人の幼い子どもたちですらも直感的に正しいレメディを選択し、家族が一体となって波動薬の奉仕活動を地域共同体へと広めていきました。スロヴィック氏は充血した乳房を持つ妊娠した牛の治療と慢性病を多く抱えた犬の治療についても語りました。

インド、デリーの世話人であり講師である**サンギータ・シュリヴァスタヴァ教授**は「波動薬に対する植物の驚くべき反応」と題する発表の中で、デリーでの植物に対する波動薬の肯定的な実験報告を分かち合いました。ある実験によれば、植物はCC1. 2（植物の活性と愛）によって最も良く育つことが示されましたが、彼女はまた、ジャグディシュ・チャンドラ・ポーズ氏やグローヴァ・クレヴァランド・バックスター氏、ステファノ・マンクソ氏、コンスタンティン・コロトコフ氏といった研究者の発見についても紹介しました。シュリヴァスタヴァ教授は参加者に対してスワミの「全てを愛し、全てに奉仕する」という教えが植物に対しても当てはまることを確認し、このメソッドを用いた農産物の品質向上の潜在性には計り知れないものがあると語りました。

米国からの上級実践者の**スーザン・ウェイ教授**は「誰が誰を癒しているのか？」という問いを実践者に問いかけました。より深いレベルでは患者と実践者の役割は本質的に交換可能であることの気づきがお

こること、骨折・リュウマチ性関節炎・麻痺・精神的虐待・癌といった彼女の処方経験から、ウエイ女史は波動薬の活動を実践することにより、いかにスワミの教えの理解が深まるかを語りました。すなわち、執着は苦しみの原因であること、私たちは普段考えているような分離した個人ではないこと、愛が癒しの扉を開くこと、患者さんの中に神を見ることが出来ること、波動薬は全ての存在の一体性を理解する助けとなること、スワミのみが癒し手であることです。

ギリシャの世話人で上級実践者である**マリーナ・コウヴァカ女史**は「患者さんのストレスを抱え込まないで」と題する発表の中で、自身の価値ある体験を仲間と分かち合いました。コウヴァカ女史は彼女の担当する患者さんの全ての問題を解決できるのだろうか、という疑問から自らの能力について悩んでいましたが、神のみが癒し手であることに気づき、その気づきが彼女の「私が」という思いを解き放つたことを語りました。彼女はこの新たな気づきによる自信を持って、108のコモンボックスを用いた驚くべき癒しの例について語りました。一度、**CC11.4 Migraines** であるべきところを **CC13.3 Bladder** と間違っ て処方したこともありましたが、スワミは彼女の間違いを直してくださり、レメディは有効となったこともあり ました。

第四セッション

上級実践者であり講師である**英国**の**パルヴァラム・グナパティ女史**は「慈悲の大河」と題する発表の中で自身の波動薬の体験について語りました。3年半という短い期間にもかかわらず、彼女は2500名の患者さんに処方しほぼ100%の治癒の成果を得たこと、活発な波動薬講師としてシエラレオネと英国でのワークショップと医療キャンプの開催、その他、心臓発作、慢性喘息、慢性いびき、尿路感染症、骨癌など様々な処方例について報告しました。数えきれないほどの患者さんが彼女の愛に満ちた対応を受けました。彼女は多くの時間を割いて患者さんと向き合い、問題について話し合い、肉体的な病はしばしば感情面・精神面での問題に深く根ざしていることへの気づきを促しました。

英国の**ヴァニータ・ロガナサン女史**は**英国**の**カナガラージャ・シャンムガム氏**の波動薬の処方によって癒された彼女自身の体験を分かち合いました。彼女の病は対症療法の薬の処方によっては治癒できないものでしたが、その完治によって自身はその後波動薬実践者となったのでした。翌日、ロガナサン女史は自身の家の中でのスワミのリーラについての報告を加えました。108のコモンボックスにビブーティが出たこと、この会議の出席を考えている時にスワミの写真や自身のパスポートの写真にもまたビブーティが現れたことなどを語りました。

マイケル・ラッコフ医学博士による閉会の辞

「相互補完的医療--身体と心と霊の相互関係」と題するスピーチの中で、米国とインドで小児科医とヘルスケアコンサルタントをしていた時の、自身の妻スーザンの波動薬奉仕活動、自身の最初の波動薬の体験、身心の相互関係についての考察について語りました。彼は更にアメリカ国立衛生研究所において行われた心と身体の医療研究の発展についても言及しました。最後に彼はスワミの以下の6つの教えを基に講演を締めくくりました：肉体というよりは心と霊に対処すること：病気に対してではなく、患者さんに向き合うこと：愛と慈悲を患者さんに放射すること：私たちはみな神の波動に取り囲まれていて、それによって人と人が結ばれていること：自信を持つことで何事も達成されること：愛に満たされ、微笑みによって患者さんを安心させること。

この日はアガルヴァル夫妻に対して、夫妻の20年以上にわたるサティアサイババへの献身及び波動薬という無料の癒しのレメディの発展への貢献、世界中の病む人々への奉仕、あらゆる場所での波動薬実践者の養成とサポートや不休の献身に対して万雷の拍手が送られました。

スワミアーナダとパットハント女史によってアルティが捧げられ、この日のプログラムは終了しました。

また、夜8時にはノースインディアンキャンティーンにて全ての代表者と来賓に夕食がもてなされました。

+++++

スワミアーナダの2回目の講話

スワミアーナダは、この場に臨席することが自らが非常に謙虚となる機会となったことを明らかにされ、前日の講演のテーマであった「全託」について、高揚する体験談をいくつか交えながら更に詳しく説明を加えられました。

「マタジは全託の資質を持ち合わせていました。彼女は全てのレメディを購入することによって大いなる奉仕を行っていました。ある時、ロンドンから南アフリカにやってきた方を通じてカードとマシーン、及びレメディを購入する機会がありました。しかし、その代金は100ポンドにもなり、それは彼女にとって高価すぎるものでした。マタジは祈りの部屋に行き、それら全てを神に託しました。「もし、この機材が世界にとって必要なものであるなら、どうか私を助けてください」と祈ったのです。その後彼女は患者の診察のために診療室に戻りました。10時に郵便配達員が切手の貼られた大きな包みを持ってやってきました。その中には100ポンドの小切手が、「使ってください！」という奇妙なメッセージとともにありました。彼女には心当たりのないものでしたが、実は、ある友人がロンドンからスペインへと旅立ったことがありました。この女性が海に見えるホテルのバルコニーでコーヒーを飲んでいたら、彼女の頭の中で、マタジに100ポンドを送るように告げる声を聞いたのです。その声は同じメッセージを繰り返し、3度目には「今、すぐに送りなさい！」という叫び声になっていました。そこで、彼女は小切手にその金額を記入し、メモと共に封筒に入れ、切手を貼って郵送したのです。この女性が南アフリカに戻ってマタジと会った時、二人はお互いの出来事を分かち合い、全てが明らかになりました。

スワミアーナダは、ハートからの全託が起きる時、我々の知恵をはるかに超えるエネルギーが生じることを説明しました。我々の為すべき全てのことは、気づきと全託への真剣な洞察を試みることです。もし私たちがそれが重要であることに気付くことが出来ないでいるなら、少なくともその気づきがまだ自らに起こっていないことに気付くべきであると語りました。

次の体験談は、マタジのクリニックを訪れた患者さんの話で彼は額に悪性のイボを患っていました。マタジは指でそのイボに触れ、薬を処方しました。その患者さんが家に帰って鏡を見てみると、そのイボは消えていたのです。彼女はマタジに電話をして事情を明らかにしました。マタジは、自らは何もしておらず、ただ全託をしていただけと答えました。それはマタジという個人を超えた力、主の恩寵でした。

次に、スワミアーナダは実践者に向かって助言をしました。「みなさんは、「私」が治していると感じてはいけません、私たちが治しているのではないのです。私たちは食物を創造することはできません、ましてや薬もです。実際私たちがいかにして癒しが起こるのかを知る必要はありません。全てはババの恩寵です。神の恩寵なのです。このことを忘れないでいることを覚えていければよいのです。」

スワミアーナダは更に体験談を続けました。厳しい背中中の痛みを持つ女性の話で、彼女は以前専門医にかかったのですが改善しないままにいました。その後、マタジとスワミアーナダの二人に出会い著しく回復したため、彼女の主治医が彼女に何を処方したのかを2人に尋ねにやってくるほどでした。その主治医は処方された内容を理解しませんでした。患者さんにはそれを継続するように伝えました。X線での診断では、手術をせずに彼女が歩き回れることは不可能な状態でありましたが、実際彼女は歩いてきたからです。また、1992年から1993年にかけて、1987年に開設した彼らのクリニックは大きな負債を抱えていました。しかし、ある時一人の男性がやってきて、たったの2年でその負債を返済することができるような多額の資金提供をしたのです。「神は私たち全ての悩みを知り対処してください。ですから、どうかそのことに常に気づいていてください」と彼は強く訴えました。

最後に、スワミアーナダは、ホメオパシーによる治癒活動の際スワミヴェンカテサナダと共に移動中、自身の運転していた車のブレーキが利かなくなってしまう話をされました。車は下り坂を進まなければならなかったにもかかわらず、スワミヴェンカテサナダはスワミアーナダにそのまま運転を続けるように言いました。52マイル走行後、目的地に到着しましたが、その際スワミアーナダはブレーキが完全に直っていたことに気づきました。スワミヴェンカテサナダは、「少しばかりの愛が車を直すことができるなら、人のハートに対してそれが出来ないことなどあるだろうか」と語りました。スワミアーナダは、このことが私たちがいつも覚えておかなければならないことであると強調しました。「愛が生じる時、神の仕事はこの物質世界で活発になります。どうか気づいていてください。何か

言葉を発する時、私たちは自らに問わねばなりません、これはエゴから発せられたものか、それとも愛からか？と。愛によって奇跡が起きます。」

アナント・ガイトンデ博士の講演

アナント・ガイトンデ博士は、医師、そして内分泌学・細菌学の教授としての自身の貴重な体験から対症療法に関する簡潔な 洞察を次のように語りました。

「《1たす1は2である》と学校では習いましたが、薬理学を強調する対症療法の処方の実践にあつては、《1たす1はゼロー病気に薬を加えれば病気が消える》という幻想の中に迷い込んでいるように見えます。しかし、実際には、病状はしばしば、それらを消し去ろうとして処方されたその薬そのものによって二重・三重に悪化してしまいます。癌患者は多くの場合癌そのものではなく、他の重大な病状に対し無防備となるような、免疫システムを著しく損なう伝統的な癌の治療によって命を落とします。」

「波動薬の創設におけるスワミの祝福の手を考えてみましょう、5本の指は5つの創造物、5大元素（地、水、火、風、空）を表しています。インド人の慣習として、指を使って食事をするので5本の指の強力な波動は食物の中に入り込みます。スワミは「全てを愛し、全てに奉仕する」という言葉で波動に関する深遠な教えを説明されました。イエス様もまた「自らを愛するように隣人を愛しなさい」とおっしゃいました。この2つの教えは無限で遍在する愛のエネルギーについて教えています。そしてその愛はハートの中にあります。この愛があれば全てのことが可能となります。」

彼は、さらに、漢方薬について言及され、それは異なる器官の親密な関係を理解する助けとなり、病状を診断し対処する上で実践者にとって有益なものとなるかもしれないと語りました。ガイトンデ博士の洞察は波動薬の癒しに関して、更なる研究とより広い視野のための展望を示しました。

セラパヴァン博士の講演

元麻酔科医のセラパヴァン医学博士は、明確な思考を想起する「毎日の健康の指針」と題するパワーポイントによるプレゼンテーションを行いました。健康の維持だけでなく病気の予防と治癒の双方に焦点を置きながら、彼は統合的な健康管理はホリスティックな視点が重要であることを指摘しました。ホメオパシー、対症療法、自然療法などのあらゆる分野において、主であるサイのみが唯一の癒し手であると語りました。スワミの教えからヒントを得て、パヴァン博士は身体を自動車に例え、鮮やかな説明によってその例えを詳述しました。彼はまた「HEALTH」の文字を用いて次のような大切な頭字語を紹介しました。

- H Hari: ハリ（神）；全ての源
- E Exercise, Effort : 身心に摂り入れるもの・努力・運動
- A Awareness & Acceptance : 気づきと受容
- L Love for Life; Level-Headedness : 人生・生活への愛、平常心
- T Thoughts; Shun Negative Thinking : 思い：否定的な思考を排除する
- H Harmony, Happiness & Humour : 調和、幸せ、ユーモア

また、パヴァン博士は自身が両手の機能を失った後スワミによって奇跡的に回復した驚くべき話を分かち合ってくださいました。彼は、長寿で幸せな人生を送るために健康を維持する上で、人間的価値及び平常心の重要な役割を強調し、「ゆったりとした平安の中に生きましょう、そうでなければ病気になってしまいます」という大切な訓戒で締めくくりました。

プログラムの終了に当たって、参加者は再度起立し、世界で治癒の必要とされる人々やサイ波動薬のためにしてこられたあらゆる貢献に対しての感謝を表して、アガルヴァル博士夫妻に熱心な喝采を送りました。

108のコンボボックスの再充電も行われ、そこではスワミの素晴らしいリーラ（写真参照）が起こりました。最後にオームが3回唱えられ、「全ての存在が幸せでありますように」というお祈りで会議は締めくくられ、この素晴らしいイベントに対してスワミへの溢れんばかりの感謝が捧げられました。

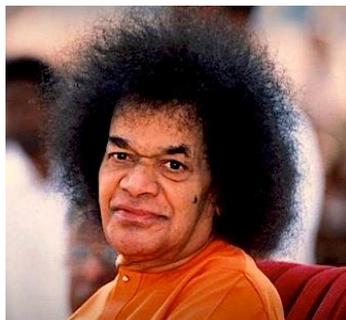




☞ 社会のメディアを用いてサイ波動薬のメッセージを広める ☜

ラジオサイ (www.radiosai.org) において、2014年1月27日にこの会議についての写真入りの記事が掲載されるという祝福を得ました。もしこの記事に賛同されるましたら、ラジオサイのウェブサイトへの書き込みをしていただければと思います。患者さん、家族、友人にもお知らせください。

フェイスブック上でも、実践者、友人、患者さんのために、ラジオサイはその記事を提供いたします。まずは、ラジオサイの「友人になる」をクリックし、1月27日の記事に「いいね！」をしてください。



☪ 癒しの主からの御言葉 ☪

「自信を培い、神への固い信を持ちなさい。揺るぎない信を持って、同朋への奉仕に身を捧げ
お手本となる人生を送りなさい。」
...Sathya Sai Baba

「奉仕とは何でしょうか？人々はそれを『良い仕事』のことであると言います。セヴァを『良
い仕事』であると考えてはなりません。『私は他の人に善いことをしている』という態度です
ら適切なものではありません。正しくは奉仕を『神の仕事』とすることです。真の奉仕とはあ
なたの行う全ての活動を『神の仕事』と見なすことです。」
...Sathya Sai Baba

*Love All, Serve All, Help Ever Hurt Never, Book Commemorating Sathya Sai Baba's 80th
Birthday, 2005*

☪ お知らせ ☪

ワークショップ開催予定

- ❖ インド **デリー-NCR**: 全ての実践者のためのリフレッシュセミナー 3月16日、上級波動薬実
践者ワークショップ 3月20日から24日、連絡先: サンギータ trainer1.delhi@vibrionics.org
- ❖ 英国 **ロンドン**: アシスタント波動薬実践者ワークショップ 3月下旬、連絡先: ジェラム
jeramjoe@gmail.com
- ❖ インド **プッタパルティ**: アシスタント及び上級波動薬実践者ワークショップ 4月18日から22
日、連絡先: ヘム 99sairam@vibrionics.org

全ての講師の方々へ: ワorkshop開催の予定がありましたら詳細を: 99sairam@vibrionics.orgまでお送
りください。

サイ波動薬...誰にでも手の届く卓越した無料の医療を目指して